

# 学校の詩

うた

学校の教育目標

## 自律貢献

文責：校長 藤井浩彦

### ◆「夢講座」でたくさんの元気をもらいました！

12月22日、熊丸みつ子先生をお呼びして本年度初の「夢講座」を実施しました。年間700回もの講演会を全国各地でなされている先生のお話は、パワフルで心に響くものでした。以下、先生の言葉です・・・

- お母さんは命をかけてあなたを産んだの。お父さんとお母さんの愛に包まれながら生まれてきた。それは奇跡なの。
- 人は、幸せになるために生まれてきたの。だから、あなたたちは、幸せになる権利がある。
- 親に優しくしてもらっているから優しくなれる。親から愛されているから愛することができる。素敵な笑顔で育てられたからその笑顔があるの。
- 「いじめ」は、弱くて卑怯な人がすること。自分を大事にしなさい。そうすることで、人を大事にできるから。
- 「学力」も大事だけど、一番は「人間力」。失敗や間違いは、神様からのプレゼント。失敗や間違いによって、人間力が高まるの。受験も大変だけど、スカッと終われるようにベストを尽くしなさい。結果はあとからついてくる。勉強とか友達のことを悩んだりしてるかもしれないけど、たくさん悩んで！それが生きる力につながるから。
- 東日本大震災で子どもを亡くされた方に、こう言われました。「子どもがいてくれるだけでいい。子どものことで悩めるって幸せなことです。子どもとけんかできるって幸せなことです。何気ない日常の、当たり前のお礼を、もっとみなさんに知ってほしい」。わかる？生きていてだけで幸せなことなの。あなたたちは、ここにいるだけで幸せなことなの。あなたたちはいるだけで素晴らしいの！だから、最後に3つだけしっかり覚えて！
  - ・何かあったら、誰でもいいから必ず話しなさい。相談しなさい！
  - ・自分を大事にしなさい！
  - ・何があっても死なない(絶対に自分で命を絶つようなことはしてはダメ！)。



- 今日、先生のお陰で、できることが見つかりました。それは、人に優しくすることです。熊丸先生は優しくできない人は優しくされないと話されていました。私は、よく優しいと言われるのですが、それは周りの人が優しいからなんだと気づきました。【1年生】
- 私は夢講座を通して、すごく心があたたかくなりました。今、自分でモヤモヤしていたことがとてもスッキリしました。私がほしかった言葉を言ってくださって、とても心が軽くなりました。先生の話にすごくあたたかみがあって両親を大切にしよう、みんなに本音で話せるようになろうと心から思うことができました。「自分らしく」という言葉を目標に、これからは一生懸命生きようと思います。そして、言葉には魂があることを忘れずに、伝えたいことを伝えていけるように頑張ります。【2年生】
- 僕は、今回、生きていくことの大切さ、家族のありがたさを改めて感じました。僕も中二の頃いろいろ大変なことがあったけど、陰で家族が支えてくれました。「人は幸せになるために生きている」という言葉にとても感動しました。僕は、大人は悪いところしか見ていないと思っていました。人と人が傷つけ合うのは普通の事だと思っていました。でも、熊丸先生のような、人に幸せを与える人を僕は尊敬しています。僕も人に幸せを与える大人になりたいと思っています。【3年生】
- ◆笑いもあり、とても早い1時間でした。私たち大人にとってもわかりやすいですが、中学生の子どもたちにも熊丸先生のお話は、スッと心に入っていたのではないのでしょうか。実際にお話を聞かせていただき、暖かい気持ちになりパワーもいただきました。イライラしつつもあきらめずに子育て頑張ります。【保護者】
- ◆先生の言葉で「悩める幸せ」という言葉が心に響きました。子どもに、どうしてできないの？やらないの？とイライラして怒ることもありますが、そういったことができるのも、そういった感情を抱くのも、そこに子どもがいるからこそできるというお話でした。・・・(中略)・・・意見がぶつかることも心折れそうになることもあります。先生が愛情を持って気持ちを伝えていけばいつか伝わるし理解してくれる日がくるとおっしゃっていたので、その言葉を励みにまた頑張ろうと思いました。【保護者】

この他にも紹介したい感想が山ほどです。素敵な子どもたちの感想を読みながら目頭が熱くなりました。子どもたちの心をこんなに暖かくしてくださった熊丸先生、本当にありがとうございました！「生きてるって、それだけで素晴らしい！」改めてそう思わせてくれた夢講座でした。

## 『感謝を伝える』

### 校長コラム

2020年が、あと1週間で終わりとなります。すべての人にとって、本当に悩み多き一年だったのではないかと思います。新型コロナウイルスの出現で、まったく先の見えない状況に陥り、様々なことが「中止」そして「制限・制約」・・・何より大切な人を失うなど、悲しい思いや苦しい思いをたくさんしました。一方で、「当たり前のお礼」「人々の優しさ」「人間のすばらしさ」、さらには、「止まない雨はない！」と信じ、前向きにたくましく生きる「人間の強さ」など、多くのことを学び感じた一年でした。

私自身も何度も悩み苦しめ眠れない日々が続きました。考えてもわからないこと、どうしようもないことでもたくさんの人の力を借りながらここまでできています。まだまだ新型コロナウイルスの感染症拡大は収束したわけではありません。年末年始も例年と違う形にはなりますが、人々がそれぞれに対策を講じながら過ごすことが大切なのではないかと思います。そして、一年の終わりに改めて多くの人に「感謝をする」時間がとれたらいいと思います。以前紹介した桐生稔さんの著書『雑談の一流、二流、三流』の中に「感謝を伝える」ということで次の内容が書かれていました。

「ほんの1秒、2秒なのにおいしい・・・」と思うことがよくあります。それは商談の去り際です。

エレベーターでお見送りするときに、エレベーターが完全に閉まる前に頭を上げる人、まだ完全に閉まり切っていないのに部屋に戻ろうとする人。本来ならば、エレベーターが完全に閉まるまで頭を下げて感謝の気持ちを伝えるべきところ、エレベーターのドアが閉まる前に次の行動を取ってしまうのです。せっかくそれまでの商談がいい雰囲気だったとしても、この一瞬の行動で相手の印象は悪くなります。

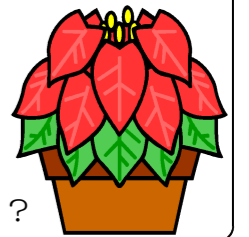
逆に去り際が徹底されている企業は気持ちがいいです。以前私が、売り上げ高1兆円を超える老舗企業で講演をさせていただいたときのこと。担当者が玄関までお見送りをしてくれました。私はお礼を言い、玄関を出て、そのまま真っ直ぐ歩き出しました。少し歩いて曲がり角に差し掛かったときに、一応玄関のほうを振り返ってみると、なんとその担当者はまだ頭を下げておられました。やはり売上高が兆を超える伝統ある企業は、しっかり研修されていると感心しました。

また私が出張したときのこと。あるホテルに宿泊した際に、エントランスでタクシーを呼んでもらいました。タクシーに乗って少し走ったところで、私はホテルのエントランスが気になり振り返りました。すると、なんとホテルの方がまだ頭を下げてお見送りをしてくれていたのです。以来私はそのホテルの常連になりました。

私の友人で、保険業界で世界ランクの称号を持つトップセールスマンがいます。彼は、お客様の玄関先を出るときに、たとえそこにお客様がいなくても、「本日もお会いいただき、ありがとうございます」と気持ちをこめて、玄関で深々と一礼をして、その会社をあとにするそうです。

- ◆エレベーターであれば完全にドアが閉まるまでお辞儀をする。
- ◆お見送りのシーンであれば相手の姿が見えなくなるまでお見送りする。
- ◆友達との別れ際でも相手が見えなくなるまで大きく手を振る。

これらは、ほんの少しの時間です。その少しの時間が、そのあとのあなたの印象に大きな影響を与えます。まさに去り際に宿る女神。ぜひ、別れ際にほんの少しだけ、出会いに感謝する時間を意識してみてくださいはいかかでしょうか？



商談やホテル等での去り際のことを例に書かれてはいますが、私はこれを読んだとき、感謝の伝え方は様々ではあっても、何より「感謝の気持ち」を持つことの素晴らしさを学ばせてもらいました。当たり前ではない私たちの出会い、あることが当たり前でないこと、してもらっていることが当たり前ではないということを、私たちはしっかりと自覚することが大切なのだと思います。2020年は、多くの人やもののおかげで私たちが生きている、生かされていることを身に染みて感じた一年でした。だからこそ、今年の終わりに、自分に関わってくださったすべての方に、直接であれ間接的であれ、言葉や姿勢で「感謝の気持ち」を伝えていくことが大切なのだと思います。

私たちにいつもたくさんの笑顔と元気をくれた子どもたちに感謝をします。子どもたちを支え、学校にいつもご理解とご協力をしてくださった保護者の方々や地域の皆様に感謝します。医療従事者の皆様、社会を支えてくださっているすべての方々に心から感謝を申し上げます。

来年も御陵中学校教職員一同、子どもたちのために精一杯頑張っていきます。2021年は、新型コロナウイルスが収束し、すべての人にとってよりよい年となりますよう心から祈っています。1月8日始業式、子どもたちと元気に会えますように・・・